

学生生徒修養会 修了者名簿の活用について

この度、立教 176 年以降の「学生生徒修養会 修了者名簿（記載情報は当時のもの、学校の右に記載の数字は学年）」を該当する直属学生担当委員会へ配布いたします。ぜひこの機会に、学修修了者が、現在、所属教会へ足を運び、親神様・教祖に心をつないでいるかを確認してみてください。そして、婦人会・青年会とも連携して、一人でも多くの若者が「教祖のようぼく」として育っていくための丹精の一助にして頂けたら幸いです。

ステップ 1：現状の確認

名簿に記載された一人ひとりが、教会とのつながりにおいて現在どのような状況にあるのか（以下の①～③）を確認してください。学担でできる範囲は学担で行い、それ以外は所属教会などに尋ねてみてください。

現状

- ①「年に数回以上、教会に参拝している」
例) 曜日があえば月次祭に参拝している、仕事終わりの夜に教会を訪れている、など
- ②「教会に参拝していないが、所属教会から連絡できる状況にはある」
例) 電話で連絡ができる、教会報を送って届いている、など
- ③「まったく連絡もできず、本人からも連絡がない」
例) 保護者には連絡ができるが、本人には会えていない、など

ステップ 2：学生担当委員会事務局への報告

ステップ 1 で確認した結果を集計し、6 月 25 日までに集計シートを学生担当委員会事務局へ提出してください。

ステップ 3：丹精

ステップ 1 で得た情報を、婦人会と青年会とも共有して、一人ひとりの教会へのつながり方、教祖のようぼくとしての丹精のあり方について多くの人と検討してみてください。

- ①「年に数回以上、教会に参拝している」人であれば、各会のスタッフや、それに準じる形で行事の運営に携わってもらい、少しずつ働きかける側になっていってもらえるように丹精してみる。また、学生を誘って教会でひのきしんをし、学生と会長さんの仲立ちをしてもらうなど、若者の日常の丹精の一翼を担ってもらう。
- ②「教会に参拝していないが、所属教会から連絡できる状況にはある」人には、所属教会と連携して各会の諸行事への参加の促しが考えられる。お道の中での知り合いを増やすことや、信仰を求められる場所を知ってもらう事も丹精につながる。
- ③「まったく連絡もできず、本人からも連絡がない」人には、例えば同年代の知り合いが各会にいないかを探し、もしあればその人から声をかけてもらうなど、再びお道につながるきっかけを作ることからはじめていきたい。

今回の学修修了者の名簿をもとにした確認作業を通して、少しでも、「教祖のようぼくを育てるための談じ合い」が行われることを願っています。

各教会では、天理高校、天理教校学園高校の卒業生も把握しておられることと思います。この機会にそれらの卒業生にも声をかける機会を作るなど、更なる展開もそれぞれでお願い申し上げます。